

研究成果報告書

- ・機関及び学部、学科等名 富山国際大学現代社会学部
- ・所属ゼミ 佐藤悦夫ゼミ
- ・指導教員 佐藤悦夫
- ・代表学生 宮崎春奈
- ・参加学生 今井雪乃、佐野里穂、野村彩乃、松木峰音、宮崎春奈、森本絵里香

【研究課題名】

新幹線開業後の五箇山地域における観光客の動向調査ならびに新しい観光資源の創出に関する研究

1. 課題解決策の要約

五箇山での調査を通して、現在は少数の観光客である 20 代の若い人、特に女性を呼び込むために、五箇山らしいスイーツの開発が必要であるとの結論に達した。

2. 調査研究の目的

- ①新幹線開業後に五箇山を訪れる観光客の行動パターンを対面式アンケート調査により把握する。
- ②観光地にとって重要な要素の一つである、「食」、「土産物」を調査するために、レストラン、お土産物店などに聞き取り調査を行う。
- ③調査結果を踏まえ、大学生の視点から新しい五箇山の魅力を創出する。

3. 調査研究の内容

10 月	: 観光客動向調査のためのアンケート作成
10 月 31 日	: 菅沼集落、相倉集落における観光客の動向調査
11 月 1 日	: 菅沼集落、相倉集落における観光客の動向調査
11 月 6 日	: 赤尾地区、菅沼集落における聞き取り調査
11 月 13 日	: 上梨地区における聞き取り調査
11 月 20 日	: 下梨地区、相倉集落における聞き取り調査
11 月 27 日	: 小谷地区における聞き取り調査
12 月下旬～1 月	: データ分析、報告書の作成

4. 調査研究の成果

(1) 観光客の動向調査に関するアンケート調査の集計、分析

アンケートの質問項目は 16 問あったが、今回は報告書の枚数にも制限があるので、基本的な要素のみを選んで報告する。なお他の質問項目に関する分析結果ならびにクロス集計の結果は別途大学の紀要で報告する予定である。

表 1 : 性別

	人	%
男	141	44.3%
女	177	55.7%
合計	318	100.0%

表 2 : 居住地

	人	%
富山県内	74	23.3%
県外	243	76.4%
外国	1	0.3%
合計	318	100.0%

表 5 : 同伴者の数

人数	人	%
1~5	242	76.1%
6~10	34	10.7%
11~15	20	6.3%
16~20	6	1.9%
21~25	0	0.0%
25~30	5	1.6%
31~35	2	0.6%
36~40	1	0.3%
41~	1	0.3%
無記入	7	2.2%
合計	318	100.0%

表 3 : 年齢

	人	%
20歳未満	8	2.5%
20歳代	28	8.8%
30歳代	48	15.1%
40歳代	66	20.8%
50歳代	78	24.5%
60歳代	67	21.1%
70歳代以	21	6.6%
無記入	2	0.6%
合計	318	100.0%

表 4 : 同伴者

同伴者	人	%
自分ひとりで	18	5.7%
家族・親戚と	184	57.9%
友人と	70	22.0%
学校のグループで	5	1.6%
職場のグループで	10	3.1%
地域などの団体で	21	6.6%
その他	8	2.5%
無記入	2	0.6%
合計	318	100.0%

表 6 : 最寄りの都市までの新幹線の利用

新幹線を利用したか	人	%	降りた駅	人	%
はい	61	19.2%	金沢駅	21	34.4%
			新高岡駅	7	11.5%
			富山駅	27	44.3%
			黒部宇奈月温泉駅	1	1.6%
			無記入	5	8.2%
いいえ	256	80.5%			
無記入	1	0.3%			
合計	318	100.0%			

表 7 : 日程

	人	%
日帰り	145	45.6%
1泊2日	103	32.4%
2泊3日	50	15.7%
3泊4日	13	4.1%
4泊以上	6	1.9%
無記入	1	0.3%
合計	318	100.0%

表 8 : 五箇山での滞在時間

滞在時間	人	%
30分程度	56	17.6%
1時間程度	160	50.3%
2時間程度	77	24.2%
3~4時間程度(半日)	18	5.7%
1日	1	0.3%
1以上(宿泊)	3	0.9%
無記入	3	0.9%
合計	318	100.0%

表 9 : 五箇山を訪問する時の交通手段

交通手段	人	%
自家用車	190	59.7%
世界遺産バス	15	4.7%
高速バス	6	1.9%
観光バス	54	17.0%
レンタカー	39	12.3%
その他	10	3.1%
無記入	4	1.3%
合計	318	100.0%

表 10 : 立ち寄り先 (複数回答可)

立ち寄り先	人	%
相倉集落	220	69.2%
菅沼集落	205	64.5%
五箇山総合案内所	9	2.8%
道の駅上平(ささら館)	31	9.7%
岩瀬家	6	1.9%
村上家	15	4.7%
道の駅たいら(五箇山和紙の里)	26	8.2%
その他	11	3.5%

表 11 : 満足度

	人	%
大変満足	158	49.7%
やや満足	151	47.5%
やや不満	4	1.3%
不満	0	0.0%
無記入	5	1.6%
合計	318	100.0%

全体集計から見られる観光客の特徴をまとめると、①富山県外に住む観光客の割合が 76.4%であること(表 2)、②年齢は 40 歳以上が多く、20 代の観光客が少ないこと(表 3)、③10 人以下のグループで、家族、友人等で来る観光客が多いこと(表 4、表 5)、④滞在時間は 2 時間以内が大部分であること(表 8)、⑤立ち寄り先も菅沼集落と相倉集落が多く、他の施設にはあまり行かないこと(表 10)、

などが挙げられる¹。

近くの都市までの新幹線を利用に関しては、19.2% (N=61 人) が利用しており、利用した駅は富山駅 27 人、金沢駅 21 人であった (表 6)。また、五箇山を訪れる交通手段としては、自家用車が多いが、レンタカーの利用者も 12.3% (N=39 人) であった。レンタカーは富山で借りた人 11 人 (東京 9、大阪 1、長野 1)、金沢で借りた人 8 人 (東京 5、佐賀 1、岩手 1) であった。地元の話によると、最近ではレンタカーで五箇山を訪れる観光客が多いとのことだったので、今後も新幹線とレンタカーを利用してくる観光客が多くなると思われる。また、世界遺産バス (高岡-白川郷) の利用者には、若い観光客や外国人が見られた。

(2) 観光事業者に関するヒアリング調査

11 月に五箇山地域にある 22 件の観光事業者でヒアリング調査を行った。まず初めに、五箇山の職を整理すると、五箇山では「いわな」「五箇山豆腐」「そば」「赤かぶ」「山菜」などを素材にした料理を食べることができる。観光客に対するアンケート調査によると、五箇山で飲食する人は 55.3% であり、五箇山を訪問する 40 歳以上の観光客 (全体の約 74% を占める) にとっては、五箇山らしい食事に魅力を感じていると思われる。

また、お土産物に関しても「地元の農産物」、「五箇山和紙関係の製品」、「とちもち等のお菓子関係」などが売られていた。観光客に対するアンケート調査によると、五箇山で買い物する人は 44.3% であった。

一方、私たちと同年代である 20 歳代の傾向は、訪問者全体の中では 8.8%、飲食する 174 人の中に占める割合は 8.0% である。また、買い物する 141 人に占める割合は、5.0% と低い。

以上のことから観光客全体に占める 20 歳代の人数はまだ少ないが、若い人たち、特に若い女性が魅力的と感じる食べ物やお土産物が求められているのではないと思われる。

(3) 五箇山の観光の課題

世界遺産に登録されている五箇山地域は、ネームバリューもあり、年間 70 万人から 80 万人の観光客が訪れる富山県の重要な観光地である。ところが、高山市のように若い人にはまだ魅力的でないようである。2015 年の 6 月に高山での調査も行ったので高山と比較しながら五箇山の課題を考えてみたい。

①若者をターゲットとした食事、スイーツ、お土産物を作る。また、若者に対する五箇山の魅力を発信する方法を考える。

五箇山という歴史ある空間で、五平餅や五箇山団子のような伝統的な軽食を食べる以外に、現代的な五箇山らしいスイーツ (あるいは料理) を食べることができるのであれば、まさに「古さと新しさの融合したおしゃれな空間」を演出できる。従ってインスタグラム、フェイスブック、ツイッターなどで、写真を送りたくなるような空間やモノが必要である。

②滞在時間が短く、また訪問箇所も限られているので、五箇山全体に観光客が回遊できる仕組みを考える。

和紙で作ったイラストマップなどや、旅の記録を書けるようなガイドブックなども考えられる²。

③写真を撮影して帰るだけでなく、五箇山の歴史などを学びたいという若者に対して 地元の人と交流したり、語り部の話を聞けたりする施設が必要である³。

¹ : 佐藤の 2010 年の調査によれば、この傾向は 2010 年時にも見られる特徴である (佐藤悦夫 2011 「富山県五箇山地域の観光客の動向に関する一考察: 2010 年調査を中心に」 『富山国際大学 現代社会学部紀要』 第 3 巻、pp 103-137

² : 2014 年に現在の佐藤ゼミの 4 年生が『世界遺産 五箇山 旅の記憶』というガイドブックを作成した。

³ : 2 月 27 日に富山国際大学観光専攻の公開講座が五箇山で開催され、佐藤ゼミ 3 年生は発表すると同時に、平泉世界遺産センターの館長の話聞きながら五箇山での可能性を深めたい。

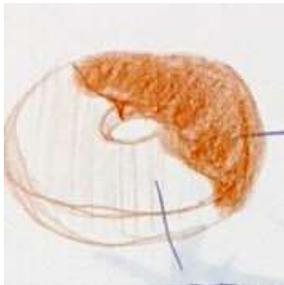
5. 調査研究に基づく提言

五箇山の①の課題を解決するために、五箇山らしいスイーツとその容器を作ることを提案したい。高山市の古い街並み地区の観光客を観察していると、高山の「コロッケ」、「ソフトクリーム」、「肉まん」、「牛肉の寿司」などを食べながら歩いている若い観光客が多く、それが SNS で発信され（口コミ）、若い人たちの魅力となっている。そこで五箇山でも食べ歩きできるようなスイーツ、あるいは喫茶店などで休憩しながら食べられるスイーツが必要と思われる。

ターゲット：現時点では少数の観光客であるが、今後 PR 次第では誘客が期待できる 20 歳代の女性。

コンセプト：五箇山らしい素材を使ったヘルシーなスイーツ。「歴史的な空間+現代的でおしゃれなスイーツ」。容器も五箇山らしい和紙で作ったプレートで提供。観光客でにぎわう高山の煩雑さとは異なり、自然と歴史空間でゆっくりと過ごすときに食べられるスイーツ。

スイーツ：自家製のドーナッツやチーズケーキを作る。



①五箇山ドーナッツ：五箇山豆腐を素材にしたドーナッツ。抹茶味の豆乳クリーム等の組み合わせでいろいろ種類ができる。②チーズケーキ：五箇山豆腐を使ったヘルシーチーズケーキ。



容器：和紙で作ったチーズケーキ用のプレート、再利用可能でお土産にもなる。

6. 課題解決策の自己評価

五箇山での調査を行い私たち自身で五箇山の現実を感じ、ゼミで議論した。五箇山の観光客の年齢層は 40 歳以上の人が多いのであるが、私たちはあえて 20 代の若い女性に五箇山に来てもらいたいと思い、「古さと新しさの融合」、「小さくておしゃれなもの」、「インスタグラムなどの SNS にすぐに投稿できるもの」をキーワードに議論を重ねた。結果として、スイーツにたどり着いたのであるが、若い観光客に受け入れられるかやや心配である。

アンケート調査では、何度も断られ心折れる場面もあったが、データを分析しながら五箇山の観光客の特徴などを自分たちで発見できたときにはワクワクした。これを第一歩として、さらに五箇山の研究を行いたいと考えている。

最後にコンソーシアム富山をはじめとして、五箇山で調査に協力していただいた観光事業者の皆さま、アンケート調査に協力していただいた観光客の皆さまへ感謝申し上げます。